

再び自己解放から、30日公衆 闘争の分水嶺を解体せよ！

第四回「タナシヨナル中大」

10月初旬以降、にわかに突き出されたスターリニスト民衆の「自己解放」策動が、10・19を前後して「反トロツキ」として急進主義者へのテロル、中大武装制圧と展開される中で、急進主義者は「痛苦の念をもちて昨日（10・19）の闘いを総括する」と言い残して沈黙し、今や「30日公衆闘争」を叫んだ革マル派自身すらスターリニスト民衆との節内容な、然し軍事制緊張関係の中で、内部から腐敗と墮落を一層深めている。現在、中大の情勢に深刻な危機が進行していることに注目しなければならぬ。

革マル派が二の向のスターリニスト民衆との対立を「反暴乃キャンペーン」中の民衆が暴力をなしたと「自己批判」をもちてスターリニストの基盤の上で説教を垂れた事態は、ナンセンスを通り越して、そこにはプロレタリアートにとっての主体的危機が刻一刻と迫りつつあることを示した。スターリニストと自己の間に明確な分水嶺——それはプロレタリアートの政治的独立を賭けたカウインタナショナルの歴史的闘いである！——を引くことの出来る革マル派と「沈黙」の急進主義者は、スターリニストに対するゲバルトにあって、自己を表現する以外に方法を持たない。しかるに中大に於ける急進主義者が「沈黙」しアラノキスト的に向おうとも、そしてその中で革マル派が「30日公衆闘争」を軸に急進主義の拡散の再編を目論むことも、それはかつての軍共産運動の位置と水準へ自己を接近させ、彼らの「反スターリン主義」の一層の修正主義的適用は現在、わが中大に於けるが如く、スターリニストの政治と統一の基盤へと解消されることを通して、再び「軍共産闘争」の敗北の痛手にある学生大衆に追討ちをかけ、大衆をしてその意識を個別中大と言う枠内に押し止めるにとどまらず、アトム化せしめる役割をなすだけである。自然発生的に押戻して、スターリニスト官僚に対する政治的武装を通して戦後世界に対する革命的総領的武装に失敗した者は、自然発生的力を私怨せしめるよう働き、革マル派の如く小作急進主義の拡散を再編せんと夢想することによってそれは一層促進される。

まさにプロレタリアートの政治的独立の解体的危機は、かく深刻さを増して進行しているのだ。その先にあるものは、急進主義者の想像を絶するスターリニスト官僚とその手先によるアルツヨフ左派の政治的プロレタリアートに対する一層の強奪が貫徹されるだろうし、しかも又、現在ヤルタリポツタム体制の崩壊期にあつてかかるスターリニスト官僚の政治は一挙に「ブルバリズム」の危機とを呼び起こす。

至ての学友諸君！

中大の現情勢の深刻な危機の突発は、プロレタリアートの独立の為の闘いに集中することである。かかる現状としてのアトム化乃至は脆イテオロギイ的状态の克服は、何よりもスターリニスト官僚を革命的に打倒する為の政治的武装を自己のそのとして行くこと以外にないし、来たる11月7日「ロシア革命記念講演会」は、かかる闘争の出発点を形成する革命的意義を持つものとして確認しなければならぬ。そしてプロレタリア・インタナショナル指導部の危機を固定化し、否認し忘れ去り、腐らせようとする論を革マル派の反動的基盤を解体し、第4インタナショナル再建の闘争へ集中すると言う現実的課題と展望を負っているのだ。

至ての学友諸君！

11・7「ロシア革命記念講演会」へ結集せよ！
危機の現代階を突破する政治的礎石は、まさにここにある！

スターリニスト民衆
の反革命的策動を粉砕
せよ！

11・7「ロシア革命記念
講演会」へ結集せよ！

所 北部労働館(5号車)
時 六時PM